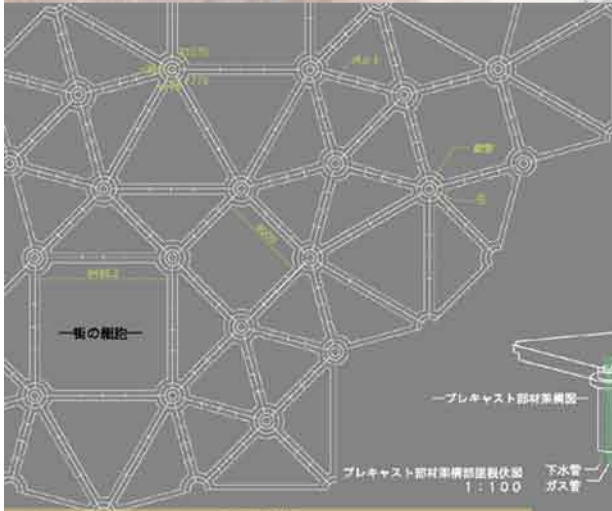


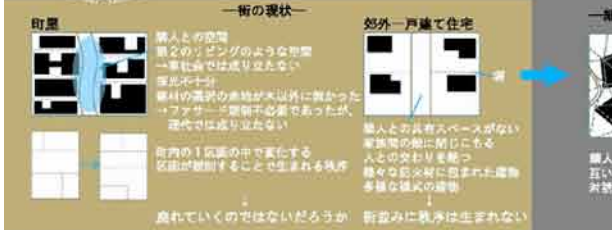
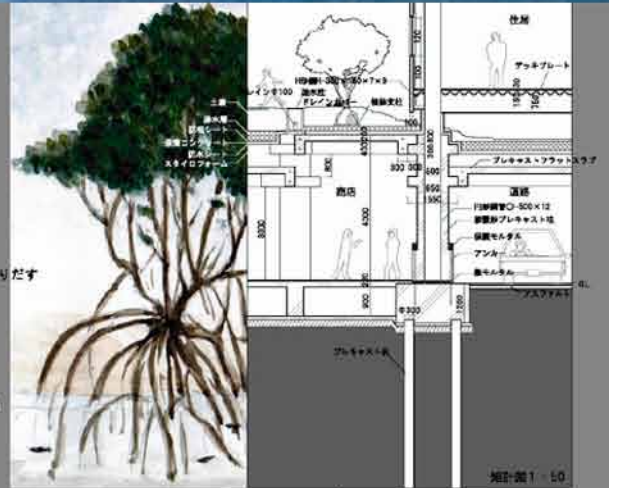
「木々さんと街になる一街は幾何学的、細胞体」岡田 響子



幾何学が
秩序を生み出し
不滅の美を形成する

幾何学は
街の細胞であり
街の根となり

生命のある街をつくりだす



三重県地図
近畿圏地図

一現状—

駅前上りる駅前商店街
駅前商店街の裏道
駅前商店街
駅前商店街の裏道

三重県前浜市白子駅前
白子は、かつて港町・伊勢参道沿いの宿場町として栄えていた。暫くの小規模な、総行するうちに連なる町屋、にぎわう商店、並ぶ所にある商店、今も昔の面影を残す町。駅は通学の人々が行き交い、駅前第一ビルでは多くのレオパレスが建てられている。更に伊勢参道、百に幾筋山並み、その間に河川、水田、菜園、工場、農・工・娯楽の施設がある。

一方、駅前商店街の裏道、町屋の老朽化、高層化していく街、先人達が築き上げた街並みの喪失に直面している。

一地域からよみとれること—
駅前に点在する駐車場
一連続しない街並み、空間
商店街を透視させる空き店舗
一面わいの農地
敷地区分、建物形状の多様化
計画性のない区画整理
一変換に集められる基盤
高層化
商店、オフィス、住居の混在

計画数値データ—
敷地面積 44822㎡
商業400/80
一中高200/80
商業300/80
川邊地域 環境意/景い値

計画前
細部の形状、総量度ともにばらつき、粗としての一体感に欠ける
オープンスペースが多くみられるが、主に駐車場であり、質的スペースではない

計画後
細く分散する建物
計画前と同等の密度にも関わらず、粗・住人のオープンスペースが多くみられる

一図と素の変化—
計画前
計画後

3 木々さんと街になる
Kyoko Okada

一現代社会が抱える問題—
都市と田舎の分離、都市と田舎の分離、都市と田舎の分離

都会—Big City—
人工消費
都市の発展
人工の危険
人間的危機
街のあり方とは

田舎—Country—
自然消費
田舎の発展
自然の危険
人間的危機
街のあり方とは

一これからの街の提案—
都市と田舎、人と人の格差をなくしたい
目指すのは
人と人間、人間と人間、農・工・娯楽、
全てが軽やかに交わる街

樹と人間、人間と人間、農・工・娯楽、
全てが軽やかに交わる街

居住密度
小さくても
いらぬもの
用ざらした暮らし

精神的余裕
余暇の楽しみ
人と人のつながり

その街は、変化しても、
変らずその街であってほしい

循環—Circulation—
主の暮らし循環システム

食の循環 生命の営みを感じる
粟、乳製品、肉、後草、もみ殻、わら
生ゴミ、落ち葉、田舎、草

水の循環 水のある豊かさ、水の背重さを感じる
雨、井戸、田舎、田舎、田舎

エネルギーの循環 一歩行かない
太陽光発電、風力発電、使用
何も生まれない、何も生み出さない、使用量を減らす、ほうが豊かではないだろうか

空気の循環 空気の良い場所には人は集まってくる
ゆったりした空気、新しい空気、二酸化炭素、酸欠、木々、草

秩序のある街並み
街の形状、経年変化、建物の更新に対応する
来永く根をはるように残っていく街

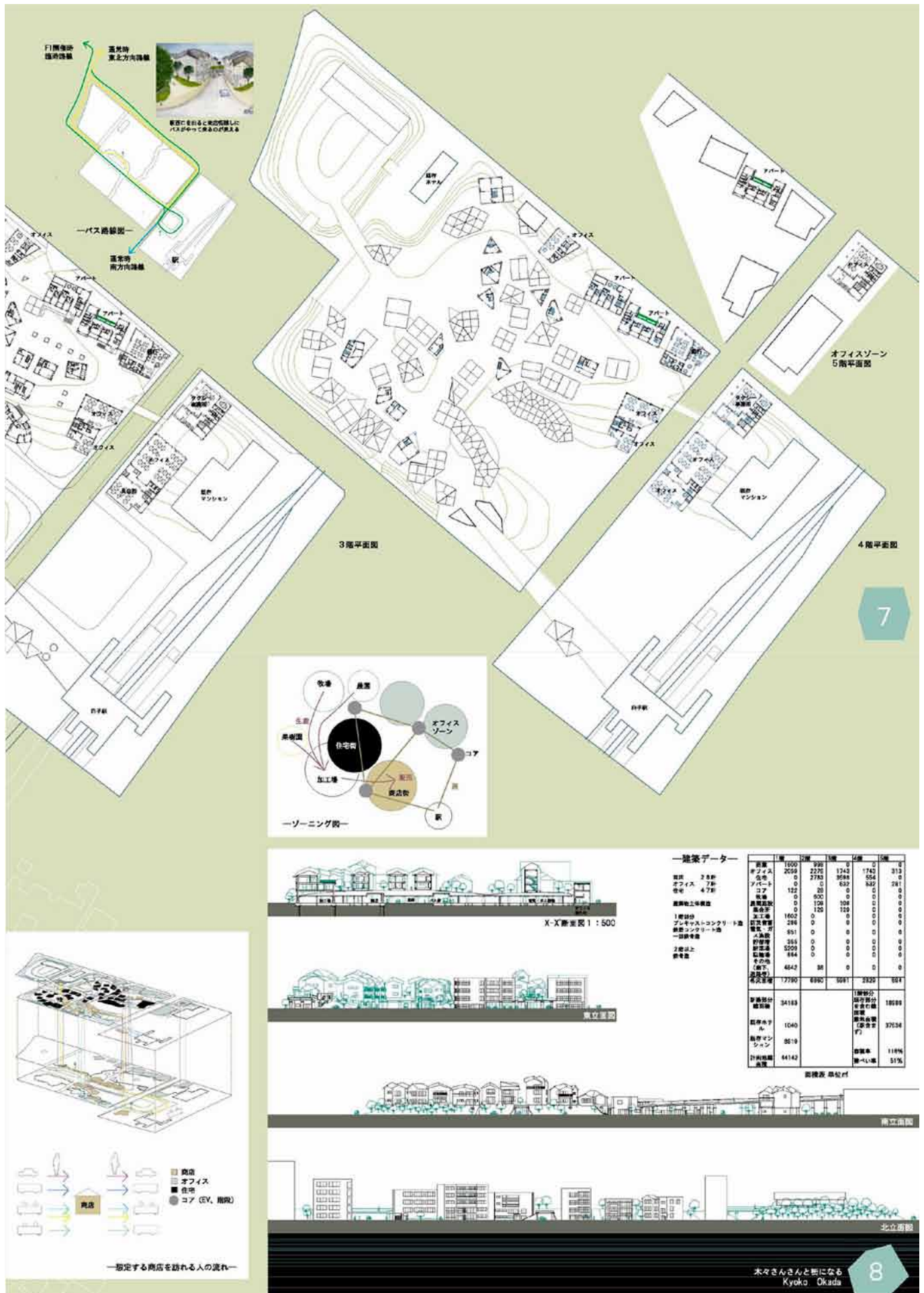
建築の循環
1 部材ずつ更新可能な
画一化された製品
1 階部分架橋

都市と田舎の融合・環境共生
それは
生活の一部も環境で
管理システムが
有機体のような田舎で実現される

木々さんと街になる
Kyoko Okada

「木々さんと街になる一街は幾何学的、細胞体」岡田 響子





7

8